総合科目「平和を考える」の授業形式と受講生の意識

教育学部　山　崎　　健

Student's Opinion in a Synthetic Omnibus Formal Subject "Thought about Peace"

Ken YAMAZAKI (Faculty of Education)

In this report I investigated a questionnaire survey to student's opinions in omnibus formal lecture.

A number of student in this class was finally 115 from each faculty except medical and dental school. And a number of questionnaire answer was 59 in 115 students and collection rate was 51.3%.

A total satisfactory value was 1.8 in 4 graded evaluation rate (best is 1 and worst is 4) and each lesson's value was 1.3~1.9 in 3 graded evaluation rate.

According to questionnaire answer of each student some problems and improvements were pointed out as follows.

Students wanted to make debate-formal lesson. And some special content was difficult to understand for then so they wanted a polite and unhurried lesson.

To use VCR teaching materials was a favorable for students. And to use a student's description of impression of former lesson, it takes a large burden for charge teacher, was also very favorable.

An important and difficult problem in this formal lecture is to make a relation between main subject and special field of each teacher's lesson. To improve this problem charge teachers made the examination arrangement about a basic conception of this lecture in advance.

Key words: Synthetic subject, Omnibus formal lecture, Relation between main subject and each lesson, Improvement of lesson, Questionnaire survey

は　じ　め　に

新潟大学では、1991年２月の大学審議会「大学教育の改善について（いわゆる「大綱化」）」をうけて大学教育の改革が始まり、「大学教育改善検討委員会」による教養教育と専門教育の一貫性や教養教育の重要性が論議された。

カリキュラムの改革は、1993年度からの入学生に対して各学部の新カリキュラムでの教養科目がスタートした。総体的な単位数の見直しと削減、外国語科目の少人数開講（といっても30名）や総合科目の新設等があり、各学部とも期待と不安の「新しいスタート」でもあった。しかし、昨年度は人文・社会科学系学部の学生が自然科学系の授業をほとんど聴講しないという現象に象徴的なように、各学部カリキュラムの目指す学生像と教養教育の理念（と学生の要求と教養教育の実体？）との整合性の論議が不十分であることなどが指摘された。また、学生の「自然科学離れ（特に数学・物理に顕著）」に対する講義内容や方法の問題（「人文・社会科学系の学生に対する自然科学概論」の必要性等）、人文学部での１年生向けの少人数ゼミの開講の評価など幾つかの教養・専門教育の内容にかかわる論議が行われ、幾つかのワークショップやシンポジウムも開催された。

このような中で教養教育総合科目「平和を考える」が1994年度よりスタートした。本報告では、いわゆる「オムニバス形式」で行われる授業形式について、授業終了後に受講生より提出されたアンケート結果から学生の意識を検討し、今後の授業改善の資料を得ようとするものである。

1．授業の概要

本講義は、人文・社会・自然科学系の複数の学部のスタッフが各自の関連分野から「平和を考える」というテーマのもとに授業を展開するといういわゆる「オムニバス形式」の授業である。この授業形式の場合には、ある主題について各専門分野の関連した内容を、そのテーマと関連して再構成して講義するのが一般的と思われるが、単独（もしくは２名程度）の教員の講義と比較して内容に一貫性を欠くことも考えられる。

本講義の開講にあたっては、事前に授業担当者が打合せを行い基本的な授業構想を検討した。内容は、先ず「現在」の平和をめぐる諸問題を探り、続いて「過去」の歴史から戦争と平和の問題を検討し、最後に地球環境の問題から「未来」を展望しようというものである。

以下に、本年度の教養科目講義概要（シラバス）を示す。

＜講義概要＞

日本における平和教育の問題は、第２次世界大戦末期の広島・長崎への原爆投下の問題にはじまり、戦争への反省と恒久平和への願いをもとに様々な取り組みが行われてきました。現代における平和の問題は、単に戦争や紛争がない状況にとどまらず、核兵器開発やその保有と配備、構造的暴力としての経済の南北間格差や環境破壊、エネルギー問題や食糧問題等様々な側面を含んできています。本講義では、人文・社会・自然科学各系列のスタッフによるオムニバス形式で、多角的に「平和」の問題を考えてゆきます。

＜担当教員＞

成嶋　隆、石崎誠也（法学部）、糟谷憲一（人文学部）、宮薗　衛、山崎　健、小林昭三（教育学部）、加村崇雄（農学部）、関根征士（工学部）、赤井純治（理学部）

＜講義計画：平和をめぐる現代、過去そして未来＞

・現代における「平和」

　a．日本国憲法の平和理念

　b．平和協力と国際貢献

・歴史にみる「戦争と平和」

　a．近代史における戦争と平和

　b．教科書と歴史認識

　c．オリンピックと平和

・地球環境の未来と「平和」

　a．原子力と平和

　b．エネルギー問題と平和

　c．地球環境問題からのアプローチ

2．授業の展開

当初の受講学生数は医・歯学部を除く各学部から136名で、最終的にレポートを提出した受講生は115名（人文学部19名、教育学部11名、法学部41名、経済学部４名、理学部13名、工学部19名、農学部８名）であった。

折しも、カンボジアのPKO活動後の日本の国際貢献のあり方や法務大臣の発言、西蒲原郡巻町に予定されている原子力発電所の問題等が論議を呼んでおり内容的には大変にタイムリーであったと考えられる。

授業には「コーディネーター」役の教員が学生と一緒に聴講して、授業担当者は担当者ノート（感想、概要、連絡事項等を記録）と講義資料を次の担当者に渡している。ただ今年度は、実講義時数が半期11週しかとれなかったため、複数回の授業を実施できた教員が２名であり、学生討論の時間も十分にはとれなかった。これを補うために、前時の受講生からの感想文を整理して記載したものを次の教員に依頼して配布する例も複数回あり受講生には好評であった（資料１参照）。

成績の評価は、各担当教員の講義内容から２つのテーマを選択してレポートを提出し、担当教員がAからC（D評価はいなかった）の評価を行う方法である。

全体としては、教員・学生ともスケジュールに余裕が欲しいとの感想が多い。学生の意見としては、教員が一方的にしゃべらないでほしい、もっと討論の時間を取ってほしい、他人の意見を聞きたい、色々な角度（人文・社会・自然科学）からの話が聞けるのでよい、今まで習っていた事が表面的だった事がわかった、自分も何かをしなくてはいけないのではと思った等様々な感想がよせられている。一方、担当教員からも、１週の講義では短い、学生と話をしたいが時間がないなどの積極的な感想や意見をよせている。

3．受講生へのアンケートの集計結果

授業終了後、受講生を対象にアンケートを実施した（資料２参照）。

回答数は59名、回収率は、51.3％であった。

各設問の集計結果を表１に示す。満足度は４段階の

評価値で1.8、各授業についての3段階の評価値は1.3〜1.9である。これは、設問2の受講理由が、特定のテーマに関心があったり平和問題に興味があって受講したという積極的な回答が多いこととも関連しているものと思われる。また、「平和協力と国際貢献」と「原子力と平和（原子力発電関連）」の評価値が高いのは、ホットなテーマであったこととVTR教材や学生間の討論が取り入れられた授業展開であったことが記述内容から読み取れる。

設問4の期待したものとのギャップでは、討論（ディベート）がなかったこととともに専門的な内容が理解しにくいという指摘もあった。しかし逆にもっと突っ込んだ内容を期待していたとの回答もあった。設問6の次年度以降の要望では、授業内容よりは「討論を行うこと」と「もう少し1つのテーマをゆっくり」との要望が多かった。

次年度からは、「平和を考えるA」「平和を考えるB」として前期・後期にそれぞれ開講される予定であり、原則的には1〜2週の講義と1週の討論の組合わせを計画している。受講生の回答からはVTR教材は大変に好評であったが、分野によっては授業展開と馴染まないことも考えられる。また、前時の感想文をまとめてプリントにして配布することは担当教員の大きな負担にはなるものの受講生には好評であった。

4．おわりに

総合科目でのオムニバス形式の授業展開の場合、各担当教員の専門分野のテーマから主題にアプローチしてゆくものと考えられる。その際の困難な問題点は、専門内容により深く係った授業展開の際、いかに主題との係りを受講生に意識させるかであろうと考えられる。

コーディネーターとして学生とともに受講していて、主題と専門分野との係りの説明は大変に分かりやすいが専門分野に係った授業内容の際には若干細かすぎるのでは……と感じる場面があり、学生の感想文でもそのことの指摘がなされていた。担当教員にとってもおそらくは初めての授業経験であると考えられ、その意味でもまさに「学生と共に創りあげていく内容」であると感じさせられた半年間であった。

表1　受講生へのアンケートの集計結果（回収数 59/115 回収率 51.3%）

問1　アンケートの回答者の内訳

	人文	教育	法	経	理	工	農
解答数	9	3	18	3	8	14	4
男子	3	1	14	1	8	14	2
女子	6	2	4	2	0	0	2
1年生	8	3	15	0	4	14	4
2年以上	1	0	3	3	5	0	0

問2　受講した理由

	受講理由
特定のテーマ	29
平和に興味	22
なんとなく	4
NA	4

問3　授業の満足度（4段階）

	満足度
よかった	17
まあまあ	37
いまいち	3
つまらない	4

問4　期待したものとのギャップ

	ギャップ
討論が少ない	8
人数が多い	3
進度が速い	4
内容が不満	15
良かった	9
NA	20

問5　各授業の受講生の評価（3段階）

	憲法問題	国際貢献	オリンピック	教科書	近代史	地球環境	エネルギー	原発問題	核兵器
よかった	18	38	19	25	15	27	16	36	16
普通	32	17	31	24	35	25	38	19	35
つまらない	8	2	8	9	7	3	3	1	4

問6　次年度への要望（複数解答）

	要望事項
討論の場を	14
人数を少なく	1
ゆっくり進む	20
内容の改善	17

〈資料１〉

総合科目：平和を考える／「エネルギー問題と平和」／７月６日　― 授業についての感想と批評 ―

［１］ 提出者：74／文－12／法－20／経－４／教－８／理－11／農－５／工－13

［２］ 授業に対する評価

(1) 良くまたはだいたい理解できた：12／／具体例が良かった／エネルギー問題を考える上で意味ある授業であった／問題意識が高まった／文系にとって科学的な内容が新鮮：３／初めてにしては良かった／エネルギーや環境で知らなかったことが色々分かって大変ためになった：２／内容は分かりやすかった／「原発をつくるなというけれど、エネルギーはどうするんだ」という疑問に、この講義内容は解答を与えている／エネルギーの面から平和を考えたのは新鮮であった／非常にためになった

(2) 難しかった。あまり理解できなかった：23／／図表の羅列：説明文が欲しい／プリントがグラフだけのはきつい／どの図表を説明しているのか分からなかった：４／身近な問題をもっと取り上げて欲しい／専門用語やデータが多くて分かりにくい：５／専門的で難しい／文系にはきつい：４／内容をもっと搾って欲しい／一方的な説明だけでなく、質問・討論時間を確保して欲しい：２／前回（赤井先生）のように視覚に訴える資料が欲しい／エネルギーと平和は直接関係なく、平和の名前だけが先走っている／エネルギーと平和が関係あるのはある程度分かるが、これまでの授業に比べると離れ過ぎているのではないか。

(3) 難しかったが興味がもてた：３／／講義の初めにエネルギーと平和との接点の説明があり納得しつつ講義を聞けた／環境問題をこのようなところまで考える機会はないので、内容は良かった。

(4) 要望など／／省エネについてもっと聞きたかった／自然エネルギーの利用についてもっと説明して欲しかった／エネルギー問題について、我々は何ができるのか、何をなすべきか話して欲しかった／もう少し国際的な取組について話して欲しかった／核エネルギーをもっと説明して欲しい

［３］ 印象に残ったこと

(1) オゾン層の破壊／／たったの３㎜（０℃、１気圧の換算）のオゾン層が地球の生命を紫外線から守っていることを初めて知った／30億年かけてつくったオゾン層を30年で破壊する人間は破壊の天才、破壊防止にも知恵を搾れ／

(2) 酸性雨／／酸性雨の酸がオレンジを食べたぐらいの程度にショック

(3) 地球温暖化／／炭酸ガスを減らすことと熱の有効利用の大切さが分かった／東京の気温が１世紀で７℃上昇したことに驚いた：３／東京のヒートアイランド化をビルの屋上緑化で解消し、３℃下げれれば110万kW級原発1.5基不要に共感。緑になってきれいで一石二鳥：４／海洋の温度上昇による地球温暖化の悪循環の話に驚いた

(4) 放射能汚染／／角砂糖２個分のプルトニウムで日本国民を全滅できるなんて恐ろしい。驚いた。：６／政府の広告にプルトニウムは飲んでも大丈夫の広告に驚いたことを思い出した

(5) エネルギー枯渇／／「あなたはテレビがなくなるのと原子力を使うのとどちらを選びますか」とのポスターをみた。人は危険でも原子力を選ぶだろう。大変なエネルギー問題に直面していることが分かった／今の人達に石油などのエネルギーが無くなることを実感して欲しい／石油の寿命の短さに改めて驚いた

(6) 環境・原発・自然エネルギー利用／／国民の生活スタイルを変えることの重要さを実感し、現段階で

は原発はつくるべきでないと思った／地球環境の危機的状況を実感できた／政府の説明があやふやで根拠を欠いていることが分かった／日本の環境行政のお粗末が分かった／通産省になびく環境庁がなさけない／環境庁は通産省に惑わされずに自然エネルギーのことを考えて欲しい／不況が先にたって環境どころではない風潮が恐ろしい／日本のSO_2、NO_x除去技術をなぜ中国や他国に提供しないのか、世界各地で環境を破壊している日本なのだからそれくらいのことして当然ではないか／日本は金儲けばかり考えずに中国や韓国に技術供与をすべきだ／日本の環境に対する技術は卓越しているのに金にならないからといって広めないのはおかしい／日本政府は企業に都合のいいことしかいわないが、原子力を今までと違った立場で考えることができた／政府や大企業は目先のことしか頭にないのではないか／国の原発に対する言い分には論理のすり替えがあると思う／日本政府の行き当たりばったりの政策にはほんとにむかつく／エネルギー問題は先進国が起こしたのだから、発展途上国に資金と技術援助をすべきだ。フィリピンのある島の人々がドイツの援助による太陽光発電で暮らしているのをテレビで見て感動した／人類の英知を振り絞って地球（環境回復）のための技術を発展させ、環境を破壊する行為は一刻も早く止めなければならない／破壊した地球をまた技術で回復させようとする考えでは今後が危うい／人間がこのまま能率や快適さだけを求めていくようならば、絶対に地球は滅んでしまうと思う／一部の人間は快適さばかりもとめて、一番大切な安全を無視している。今のままでは、取り返しがつかなくなると思う／エネルギー問題に関心をもち真剣に取り組めば、できることはたくさんある。現実に迫っている危機を感じ、他人ごとと思わず積極的に取り組むべきだ／事業に関係する一人でも多くの人にエネルギー問題と地球環境の悪化について関心をもって欲しい／原発反対は闇雲でなく知識と意見をもっていうべきだ／生活の便利さを追求するあまり、私たちが生きるために最も大切な環境を破壊しているなんてとんでもない。問題があまりにも多く嫌気が起きそうだけれど目を背けてはならないと思う／エコロジー商品が流行したのは企業やマスコミの宣伝のため。

〈資料２〉

「総合科目：平和を考える」についてのアンケート

この授業も、本日をもちまして最終となります。つきましては、次年度以降の授業内容の改善の資料とするため、受講生の皆さんにアンケート調査をお願いすることとなりました。ご協力をお願いいたします。

第１回目のレポートに寄せられた皆さんの要望としては、①毎週テーマが変わるのは忙しすぎるし、先生方も急ぎ気味なのでもう少しゆっくりとした日程でやって欲しい、②先生ばかりが講義するだけではつまらない、学生同士で討論し合う時間を設定して欲しい、③通年で開講されても受講したい等々のものがありました。

来年度は、半期聴講を前提として、通年で２＋２単位（平和を考えるⅠ＋平和を考えるⅡ）の授業形態としてもう少しじっくりと実施する予定です。

質問１　あなたの学部と学年、男性か女性かをお答え下さい

人文・法・経済・教育・農・理・工・医・歯

年（男・女）

質問２　この授業を受講した理由をお答え下さい

質問３　この授業を受講しての満足度と可能ならその理由もお答え下さい

１）よかった（　　）

２）まあまあ（　　）

３）いまいち（　　）

４）つまらない（　　）

５）その他（　　）

質問４　この授業に期待したものと実際の授業とのギャップがあればお答え下さい

質問5　どの授業が面白かったですか、また各授業の評価も遠慮せずお答え下さい

○をどうぞ！	良かった	普通	つまらない
1）日本国憲法の平和理念(成嶋)	(1	2	3)
2）平和協力と国際貢献(石崎)	(1	2	3)
3）オリンピックと平和(山崎)	(1	2	3)
4）教科書にみる平和問題(宮薗)	(1	2	3)
5）近代史にみる戦争と平和(糟谷)	(1	2	3)
6）地球環境からのアプローチ(赤井)	(1	2	3)
7）エネルギー問題と平和（関根）	(1	2	3)
8）原子力と平和（小林）	(1	2	3)
9）原子力と平和（加村）	(1	2	3)

質問6　次年度からの授業改善についてご意見をお寄せ下さい

ありがとうございました。(このアンケートは、レポート提出時に別の箱へ提出してください)

＜連絡事項＞

1．第2回目のレポートの〆切は9月26日(月) 17：00です

2．提出先は、教育学部G棟314研(山崎研究室)です
　　＜Tel：262－7081＞

3．レポートの内容は、第1回目以外のテーマを選んでください

4．レポートには、そのテーマを選んだ理由と担当教員の名前を必ず書いてください

5．採点ミス、チェックもれ等を防ぐため、第1回目のレポートのテーマ・担当教官も忘れずに書いてください

6．レポートの最後に担当教官への授業の感想、要望を書いてください

7．もしも緊急に電子メールを使う人がいれば、宛て先はyamaken@yahiko.ed.niigata-u.ac.jp.です（いるかな……？）